

2022年4月号

文化財再発見コーナー

たかおか

おん こ ち しん
温故知新

高岡の
中田に麻布の市場があったことを示す
「前田利長書状」

今回からは、高岡の各地区の歴史・文化の一端について、博物館の資料を中心に紹介していきます。まずは中田地区の歴史に迫ってみましょう。

中田は中世末より、金沢と富山を結ぶ重要な道であった北陸道の庄川右岸に発達した宿場町です。「前田利長書状（市指定文化財）」は江戸初期、おそらく利長の高岡在城時代（1609～14年）、中田に布（麻布）や米などが換金できる市があったことを示す貴重なものです。内容は「中田（の市）で布を換金し、上納するように申し伝えよ。

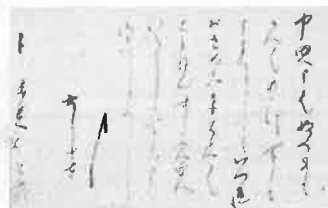
米を売却し、当年中に年貢を全て納めるように」と側近に指示しています。中田はこの書状直後の1615年には宿場町に指定

され、ますます発展していきました。

麻布は中田を含む砺波郡の特産品で、八講布・五郎丸布などともいいます。1642年、戸出に御旅屋ができると麻布の集散地は戸出や今石動（小矢部市）、城端（南砺市）、高岡町に移り、19世紀には福光がシェアを増していきました。

また、この時期にはまだ年貢収納のような事務的なことも、利長自らが指示していたことも、この書状から分かります（仁々竹副主幹芸芸員）

問合先 博物館 ☎ 20-1572



▲年末詳六月十七日付前田利長書状
（奥村長兵衛宛）【博物館蔵】